**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１０１回　（２０２４年３月１２日）**

**・勉強範囲：「第四章　在家の人への助言」４９頁**

**～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～**

**📖４９頁上段　５行目**

**これがマハーマーヤーと呼ばれているのである。それだから、人は母なる神、つまり宇宙力そのもののもとに身を寄せなければならないのだ。われわれを妄想というでお縛りになったのは彼女なのだから。この枷が断ち切られてはじめて、神の悟りは可能となるのだ」**

**師はおつづけになった、「神の恩寵を得るには、人は母なる神、つまり根本エネルギーをなだめなければならない。神御自身がマハーマーヤー──彼女の幻によって世界をまどわせ、創造、維持、および破壊という魔法をかけているマハーマーヤーなのである。彼女が、われわれの目の前にこの無知というベールをおひろげになったのだ。彼女が入口を通ることを許してくださったときにはじめて、われわれは奥の部屋に入ることができる。外に住んでいるものだからわれわれは外にあるものしか見ず、その永遠の実在、つまり絶対の存在・知識・至福を見ないのである。それだから、プラーナには、ブラフマーのような神々は、マドゥとカイタバという悪魔たちを滅ぼしたことでマハーマーヤーをほめたたえた、と書いてある。**

**シャクティだけが、この宇宙の根源である。この根本エネルギーはヴィディヤーとアヴィディヤーという二つの面を持っている。アヴィディヤーはまどわす。アヴィディヤーは、魔力を持つ『女と金』をあらわす。ヴィディヤーは人を神に導くところの信仰、親切、知恵、および愛を生み出す。このアヴィディヤーは、なだめられなければならない。それがシャクティ礼拝の儀式の目的である。**

**（解説）言葉の意味**

マハーマーヤー（直訳は偉大なマーヤー）は根本エネルギー（英語でprimordial energy）です。それはプラクリティ、ムーラ・プラクリティ（直訳は根本自然）とも言いますが、そのプラクリティは自然だけでなくすべてを合わせたものなので、「宇宙」の方がよりふさわしいと思います。またシャクティ（直訳は力）とも言います。シャクティ、プラクリティ、マハーマーヤーはすべて根本エネルギーで、言葉は違っても意味は一緒です。

**神には2つの姿があり（①永遠の実在（絶対の存在・知識・至福）、②創造・維持・破壊する姿）、マハーマーヤーはブラフマンである**

ヴェーダーンタ聖典は「ブラフマンのひとつの姿がマーヤーである」とし、あらわれているブラフマン（＝根本エネルギーの形で顕現しているブラフマン）はサグナ・ブラフマン（性質を持つブラフマン）と言います。チャンディー聖典はマハーマーヤーの姿には二つあり、宇宙を創造し維持し破壊する姿とブラフマンだと言っていますが、それぞれ見方は異なっても、マハーマーヤーはブラフマンであるという結論は同じです。

つまり、マハーマーヤーは無知的な幻であり知識を覆い隠して無意識にしてしまうものですが、その最高の姿が「サッチダーナンダ（＝絶対の存在・絶対の知識・絶対の至福）マイー」である、ということなのです（語尾にアーやイーが付くと女性形となって女神をイメージさせます。例：カーリー、サラスワティー、ガンガー、ヤムナー）。ブラフマン、サッチダーナンダ、サッチダーナンダマイーは同じことで、例えばシヴァ神の礼拝を好む人はブラフマンを「サッチダーナンダ」と呼び、女神の礼拝を好む人は「サッチダーナンダマイー」と呼びますが、それはブラフマンのあらわれていない姿、つまり性質も形もないブラフマン（ニルグナ・ニラーカーラ・ブラフマン）の、１つの呼び名です。

（板書）Sat-chit-ānanda

-ānanda-mayī

ブラフマンのもう1つの姿、つまり性質や形を持って顕現しているブラフマンはシヴァ神と呼ばれたり、カーリー女神やドゥルガー女神などと言うのです。前者は絶対の存在・絶対の知識・絶対の至福、後者は宇宙（宇宙を創造し維持し破壊しつつあらわれている姿）です。

**「マハーマーヤーを喜ばせる（なだめる）」という意味**

では、なぜマハーマーヤーは無知の状態をつくったのでしょうか？　私たちが自分の本性を理解できず、苦しみ悲しんでいる源は無知です。その無知の源がマハーマーヤーです。なぜマハーマーヤーはそれをつくったのでしょうか。

前回「リーラー」のセオリーを紹介しましたが、それによると「遊びたいからマハーマーヤーは無知をつくった」ということでした。無知があるので私たちは遊び、遊びの結果で苦しみ悲しみ時々楽しいという状態を経験しています。それらはすべて私たちを束縛するものです。無知がなくなれば遊びもなくなります。もし私たちが遊びの状態は好きではない、もしくは最高の至福が好きだったら、どうしたら霊的知識をあらわし至福を得ることができますか？

助言は「マハーマーヤーを喜ばせなければならない」です。日本語訳では「なだめる」となっていますがなだめるというより「喜ばせる」という意味です。母なる神を好きな信者はマハーマーヤーを瞑想して礼拝します。そのようにしてマハーマーヤーを喜ばせると、その結果マーヤーすなわち無知が消え、束縛から解放されるだけでなくブラフマンの知識（ブラフマ・ギャーナ）も得るのです。

**ヴィディヤー・マーヤーとアヴィディヤー・マーヤー**

宇宙の原因であるシャクティ、プラクリティ、マハーマーヤーには、ヴィディヤー・マーヤー［解脱へ向かわせるマーヤー］とアヴィディヤー・マーヤー［無知へ向かわせるマーヤー］があり、トリグナの見地から言うと、前者がサットワ・グナ、後者がラジャスとタマスです。（シュリー・ラーマクリシュナ賛歌』の歌詞中の「グナマイー」のグナはトリグナです）シュリー・ラーマクリシュナが言っているように、ヴィディヤー・マーヤーは神へと導くマーヤーで、神への愛、慈悲、知識、神聖な愛でありそれらは全てサットワ的な性質です。アヴィディヤー・マーヤーとは世俗的なすべてのものであり、そのシンボルが「女と金」です。

**チャンディーとバガヴァッド・ギーター**

ヒンドゥ教聖典にプラーナというものがあり、それは１８あります。その１つ、マールカンデーヤ・プラーナの１部分がシュリー・シュリー・チャンディー（イーと伸ばします）で、マハーバーラタ叙事詩の１部分がバガヴァッド・ギーターであるのと同様です。名の由来はマザー・カーリーの一名がチャンディーだからで、内容はマザー・カーリー（母なる神）の遊びと、その恩寵で解脱ができるということについての知識です。

（板書）Mārkandeya-purāna

（板書）Sri Sri Chandī

プラーナとマハーバーラタには物語も哲学もあります。その1部分であるバガヴァッド・ギーターはブラフマンの知識にフォーカスし、チャンディーはマハーマーヤーにフォーカスしていますが、ブラフマンの2つの姿について書いてあるという点は同じです。バガヴァッド・ギーターのシュリー・クリシュナは「そのマーヤーは私のマーヤーであり、私に祈ることが真の避難であり、私の恩寵ですべての束縛を解放する」と言い、チャンディーと同じことを述べています。

ただしチャンディーのマーヤーはマハーマーヤーのマーヤー、ギーターのマーヤーはブラフマンのマーヤーなので、シュリー・クリシュナのマーヤーはサッチダーナンダ、マハーマーヤーはサッチダーナンダマイーということです。ですからシュリー・ラーマクリシュナもそうですが、シュリー・クリシュナを人格神（Personal God）と見るのではなく、ブラフマンがシュリー・クリシュナの形で表れた非人格的な神（No personal God）と見て、「シュリー・クリシュナはブラフマンの化身であり、ブラフマンと一緒である」とイメージしてください。

ではチャンディーとバガヴァッド・ギーターを対比してみましょう。チャンディーは「*マハーマーヤーが幻惑と無知をつくり、宇宙をつくる。マハーマーヤーが束縛を生み、束縛を解放する*」（1章５６～５８節）、「*マハーマーヤーはアナンタ・シャクティである、力に限度のない、宇宙の源である。マハーマーヤーが幻惑をつくる。マハーマーヤーを喜ばせれば、束縛から解放される*」（１１章５節）と言っています。

バガヴァッド・ギーターは「*世の人々は、自然の三性質から形成された万有に幻惑され、私がこれら三性質を超越した、無限不滅の存在であることを知らない*」（７章１３節）と、マハーマーヤーはトリグナであり幻惑であり、その幻惑によって「私」（シュリー・クリシュナ）を知ることがないのだと、チャンディーと同じことを言っています。この「私」とはブラフマンで、繰り返しますがシュリー・クリシュナとブラフマンは一緒であるとイメージしなければ意味が通じません。また、「*世の人々が、これら三性質から成る私の幻象に、惑わされずにいることは非常に難しい。だが私にすべてを委ねて帰依する人は、やすやすとその危険を乗り越えられるであろう*」（７章１４節）と言っています。マーヤーを解放するのは非常に難しいが、「私」（シュリー・クリシュナ）に避難する人たちだけはマーヤーが消え束縛から解放されると、やはりチャンディーと同じことを言っています。

**束縛と解放**

では何にどう束縛されるのでしょうか。バガヴァッド・ギーターには「*サットワ、ラジャス、タマスの三性質は、すべてプラクリティから生じ、不滅の霊魂（魂）を体にしっかりと縛りつけているのだ*」（１４章５節）とあります。

プラクリティ（根本エネルギー）とはマハーマーヤーです。宇宙は、最初性質も形もない（ニルグナ・ニラーカーラ）ブラフマンですが、そこから性質のある（サグナ）ブラフマンがあらわれ、「あらわれ」はそのときから始まります。そのプロセスの最初が５つの要素で、トリグナはその要素の中にあるのです。要素は最初、大変精妙な要素で、粗大になるにつれてトリグナが混ざる割合が変化していきます。

大事な理解は、プラクリティから要素が出ること、それがデーヒナムつまりアートマン（魂）をデーハ（からだ）に束縛している、ということです（デーハの一般的な意味は肉体的な体ですが、ここでは「心、感覚、知性を合わせたからだ」と捉えてください）。そして束縛するには縛りつけるものが必要ですが、その鎖がサットワ、ラジャス、タマスであり、その３つの鎖で魂はからだに束縛されているのです。

アートマンの本性は、シュッダートマン、ピュア・アートマン、永遠、無限、時間と空間で制限されていないもの、いつも平安、いつも知恵的、いつも自由がある、いつも幸せである、その状態です。それがマーヤーの影響で、トリグナの鎖によりからだに束縛されるのです。トリグナの影響で、アートマンは「私は一時的で有限だ」と考え、無知が生まれ、落ち着かない状態になり、不自由になり、苦しみ、悲しみ、恐れ、混乱、ストレスが生まれます。無知の影響で魂はからだと同一視し、自らの本性を忘れ、からだの特徴が自らの特徴だと誤って考え、苦しみ、悲しみます。

ここでグナの特徴とグナがどう束縛するかを見てみましょう。

*これらの中でサットワは、清らかで光り輝く無垢の性質ではあるが、幸福を求め知識にあこがれるということで肉体をまとった魂を束縛する。*（１４章６節）

この「知識」とは最高の知識（ブラフマ・ギャーナ）ではなく、「幸福」も永遠な至福ではなく一時的な幸福です。つまり、サットワ・グナは良いものであってもそのレベルの知識や幸福に束縛するものであり、サットワ・グナを超越しなければ最高の知識や至福は得られない、ということです。聖典には、霊的実践を積みサットワが増えて高いレベルまでいった聖者が誘惑され突然堕落する話がありますが、なぜそうなるのかというと、まだサットワを超越していなかったからなのです。たまに「自分は悟った」と言う人がいますが、本当にニルヴィカルパ・サマーディという超越状態に至ったのかはよく調べなければなりません。

*またラジャスは、情熱の特質であるが、欲求と執着の心を生じ、人を物質的利益のある仕事に縛りつける。タマスは、無知から生じ、肉体を持つあらゆるものを惑わすし、誤解、怠惰、多眠という性向によって、人の霊魂を縛りつけてしまう。*（１４章７、８節）

ラジャスは欲望、執着、野心で魂をからだに縛りつけます。タマスは幻惑、誤解、怠惰で魂をからだに縛りつけます。ではそれをどう解放するのでしょうか。再び７章１４節に戻ると、チャンディーと全く同じことを言っていることが分かります。

*世の人々が、これら三性質から成る私の幻象に、惑わされずにいることは非常に難しい。だが私にすべてをねて帰依する人は、とその危険を乗り越えられるであろう。*（７章１４節）

前に説明しましたが、マーヤーの束縛を解放するには神の恩寵と自分の努力が必要で、努力しなければ神の恩寵はなく、また努力だけしても神の恩寵がなければ解放されないということでした［👉2023年12月講義録、2024年1月講義録］。今日の新たな視点は、それでは恩寵と努力は別々のものかということです。

**努力と恩寵**

一般的に努力のイメージは「私は頑張る」であり、努力の源は人間です。恩寵は神がなさるものであり、その源は神です。ですがそれは正しいでしょうか？　努力の力は誰がつくったものでしょう？　それは自分ではなく神ではありませんか？　努力する力は神から来ており、神は創造の最初からその力を私たちにインプットしました。ですから私たちには悟るための力があるのですが、それが足りないとき神は恩寵として力を与えて下さるのです。

ただし、力があるのにそれを使っていないのであれば、神は「私はすでに力を授けました。まずその力を十分使ってください」と言って、恩寵を与えることはありません。親が子供にお金を渡したとして、まだそれを使っていないうちから子供がさらにお金をせがんだら、親は「前に渡したお金はどうしましたか？」と確認し、まだ使い切っていないのならそれから使うようにと言うでしょう？　同じことです。

**努力──祈り**

ではどのように努力するのかというと、瞑想、識別、内省、抑制、誘惑されるような環境から離れることなどです。また深い祈り［板書：Śharanā gata］も大事です。シャラナーガタは『ラーマクリシュナの福音』の中に何回も出てきますが、シャラナとは「避難、避難所」という意味で、「神様、あなたは私の避難所です。私はあなたに避難します」と祈るのがシャラナーガタという、大事な霊的実践です。（シャラナーガタは賛歌の歌詞に出てくることが多く、『ラーマクリシュナ・シャラナン』というラーマクリシュナ賛歌にも『サルヴァ・マンガラ・マンがリエー』という女神賛歌にも出てきます）その祈りの例が『ラーマクリシュナの福音』にあるので見てみましょう。

**📖２６１頁上段　後ろから３行目**

**師は母なる神に祈っておられた。「おお、よ！　おお、オームの権化よ！　母よ！　あなたについて人びとがどれほどいろいろなことを言っていることでしょう！　しかし、その中のどれ一つも私には理解できません。私は何も知らないのです。母よ。私はあなたの御足のもとに避難しました。あなたに加護をお願いしました。おお、母よ、あなたの蓮華の御足への純粋な愛、報いを求めぬ愛を持つことができますよう、それだけをお願いいたします。そして母よ、あなたの世を魅惑するマーヤーで私を惑わさないでください。**

１つのポイントが「あなたは私の避難所」（シャラナーガタという言葉は『福音』の中に少なくとも１４回出てきます）、もう１つのポイントが「母なる神は私を幻惑している。（＝ベンガル語で「ブーバナ　モーヒニ　マーヤー」［板書：Bhuvana mohini Maya］、ブーバナは「宇宙」、モーヒニはモーハ（幻惑）の女性形で「マーヤーの影響でこの宇宙は幻惑された状態になった」という意味）もう幻惑しないでください（Please don’t delude.）」です。

有名な聖者（デーヴァルシ＝デーヴァ+リシ）ナーラダの祈りも見てみましょう。この祈りの前、ナーラダはラーマ神をたくさん褒めて喜ばせました。ラーマ神は「私はとても喜んだ。だから願いがあれば言いなさい。私が願いを満たそう」と言いました。ラーマ神は神の化身、ブラフマンの化身とイメージしてください。またそうしなければ意味が通じません。

**📖８３２頁下段　後ろから５行目**

**ナーラダはこれに答えて、『おお、ラーマ、どうぞあなたの蓮華のへの浄い信仰を持つことができますように。あなたの、世を魅するマーヤーにあざむかれることがございませんように』と言った。ラーマは、『それはそのようであれ。何かほかのことを願えよ』とおっしゃったが、ナーラダは、『いいえ、ラーマ、このほかにはどんなお恵みも欲しくはございません』と答えた。**

誘惑がある時、ヴェーダーンタはあまり助けにならない可能性があります。心がカーマやクローダ（欲望や肉欲や怒り）という津波に襲われ圧倒されているときには、「識別」や「宇宙は幻である」というヴェーダーンタ哲学の助言など忘れて思い出さない可能性があるのです。ではその時誰が助けてくれますか？　神が助けます。そしてそうなるためには、信者は常日頃から神に祈っていなければなりません。そうでなければいつも神を忘れたままです。

私たちは経験からよく分かっています、「心の津波」状態になると、聖典の助言、ウパニシャドの助言、福音の内容、バガヴァッド・ギーターの内容、祈りも全て忘れる状態になると。そして困っています。そうならないために、常日頃からナーラダの祈り「神様、助けてください」あるいはイエスの祈り「Lord, don’t lead us temptation.」と同じ祈りを捧げてください。深く、真剣に祈れば、たった１つの助け──神の恩寵──を得られます。

心の津波のとき、神は本当に助けます。また「あなたの世界を幻惑する力を出さないでください」という祈りも大事です。

**（賛歌奉献）**（映像データの１：４６：０５頃）

ニーロペロヒラチョ　ロテクリャヒ　ラーマクリシュナ　タマヤナリクレ

**（Q＆A）**

**Q）**どれだけ自分の力が使えているのかとか、努力が足りないとか、やっぱりここまでが自分の努力の精一杯ではないか、などはどういうふうに分かるのでしょうか？

**A）**とても簡単です。瞑想してください。瞑想を毎日行うところを、ある日はしてもある日はしないなら、そのことから分かるでしょう。時間も力もあって、朝それほど忙しくないのにやる気が出ないのなら、そのことからも分かるでしょう。瞑想中は神に集中すべきなのに、それ以外のことを考えているなら、それは本当は自分の力を使っていないのと同じですからそのことからも分かるでしょう。瞑想のために座っても居眠りしているようならそれが証明、それがしるしであり、そのことからも分かるでしょう。困った人を助けてくださいという霊的実践の助言がありますが、あなたの中に助ける力があるのに困った人を助けていないのならそのことからも分かるでしょう。皆の中に良い性質を見、悪い性質を見ないでくださいという助言に従わず、人に欠点を見るようなら、そのことからもすぐに分かるでしょう。

理想的な実践方法はバガヴァッド・ギーターの中に出ているでしょう？　サットワが理想的です。それはチェックリストのようです。『生きがい　～インド哲学の見方で～』（日本ヴェーダーンタ協会出版）の本の中にもチェックリストがあるでしょう？　それを使えばすぐに分かります、あなたが完璧に実践しているか、していないかが。

私たちのやり方はいつもラジャスとタマスですから、自分で努力して頑張ってサットワに上げないといけない、進まないといけないです。自分で内省してチェックすえばはっきり分かります、私たちには力があるけれどもそれを頑張って使っていないことが。世俗的なものについては頑張っていても、霊的な実践はあまり頑張っていないことが。

　　　　　以上